

A-PARTNERS

足立区 NPO 情報紙
つくる。つながる。ひろがる。

No.49
2025年3月15日発行

足立区NPO活動支援センター

協会のロシは



特集

さまざまな人や団体が参画し、子ども食堂で開催した地域マルシェ
地域がつながるイベント「あだちマルシェ」開催
子ども食堂ひよこ

トピック

- 聞きたいあなただけのストーリー Lot us Heart(ロータスハート)
- センターピックアップ 日本語教室こんぱす
- 頼って!おいでよ!子育ておまかせ処 出張キッズスペースmamato
- コラム スタッフのつづやき あだち子ども食堂たべるば

編集・発行 2025年3月15日 足立区NPO活動支援センター
〒123-0851 足立区梅田7-3-1(梅田図書館1F) TEL:03-3840-2331 FAX:03-3840-2333 担当所轄:足立区協働・協創推進課 協働・協創推進担当 TEL:03-3880-5020



子どもの居場所 子育て支援 安心して暮らせる環境や仕組みづくり



頼って!おいでよ!子育ておまかせ処



出張キッズスペース mamato

主な活動場所: 子どもをちょっと見てほしい場所
お問い合わせ: s-kids.space@mamato.info

0歳1歳2歳の子育てママの味方!

活動内容

病院や美容院、入浴施設などちょっと見ていてくれたらな。と思う場所に保育士による託児をつける活動をしています。子どもの発達や心理を熟知した保育士団体なので安心。子育ての相談もLINEでお気軽にどうぞ!

メッセージ

子育てに正解はなく、外に1歩出るとカオスな場所ばかり。4人の子育てをしている代表も大変さを痛感し、10年の保育士生活を辞め、この活動をはじめました。子育ての今を最高に楽しみたいママ仲間、募集中です!



ここに託児あったらいいなを教えてください☆



あだち子ども食堂たべるば

主な活動場所: キャラクシティ
お問い合わせ: adachitaberuba@gmail.com

ひとりでも来られる子どもたちの居場所

活動内容

2018年から西新井のギャラクシティにて子ども食堂をスタートしました。現在はこども食堂の他、中高生の夜の居場所や高校生の就労トレーニングなど活動の幅が広がっています。

メッセージ

参加者もボランティアも随時募集中!詳しくは、たべるばSNSで確認してね!お問い合わせ・DMもSNSからお気軽にどうぞ!



「くわしく聞きたい!」
「自分も何か始めたい!」
と思ったら...

地域にどんな活動があるのかな?
私にも何かできるのかな?
もっといろいろ知りたい!!
と思った方は、
足立区NPO活動支援センターに
アクセスしましょう。

あだち
協働
パートナー
サイト

X (旧Twitter)

Facebook



〒123-0851
東京都足立区梅田七丁目13番1号
TEL:03-3840-2331
adachi-npo-center@machikatsu.co.jp

スタッフのつづやき

3月は卒業や異動で別れの季節といわれますが、別れは新しい出逢いの入り口でもあり、そして不思議なご縁を感じる時期でもあります。「ご縁」を感じたのは、保育園から中学まで一緒だった友だちと20年ぶりに同じ職場で再会したことや、「私」の先生が「我が子」の先生だったことです。「不思議なご縁があるのだな」と感じると同時に大切にしたいといつも思っています。

NPO活動は皆さまの想いが形となり、そこから様々な人と出逢い「ご縁」がつくれ、つながり、ひろがる活動だと思います。私も皆さまとの出逢いを新しい「ご縁」だと思い、相談員としてご支援できればと思っています。

わからないことがあったら気軽に相談しに来てくださいね。

(相談員・根津)

*** 足立区 NPO 活動支援センター開館日・開館時間 ***

開館日: (火)~(日)
開館時間: 午前9時~午後9時30分 (月末の最終平日は午後5時)
休館日: (月)、(祝)、年末年始

さまざまな人や団体が参画し、子ども食堂で開催した地域マルシェ

12月26日に、こども食堂ひよこ(足立区足立)で開催された「あだちマルシェ」。地域包括支援センターや保育園、病院や大学生ボランティアなどたくさんの人たちが出店し、ワークショップや販売などさまざまな催しが行われました。多様な人たちを巻き込んだ地域マルシェはどのようにつくられたのでしょうか。

地域がつながるイベント「あだちマルシェ」開催

こども食堂ひよこ

地域を巻き込んで開催した「あだちマルシェ」

「あだちマルシェ」は地域包括支援センターあだち(以下、包括あだち)主催で、多世代の交流を目的に、こども食堂ひよこ(以下、ひよこ)の活動場所の足立区足立にあるアパート敷地内で開催されました。

このイベントでは、折り紙ワークショップや読み聞かせなどの子ども向けの催しに加え、パンや小松菜の販売や高齢者に向けた包括あだちによる相談コーナー、食品を手に入れることが困難な人々に無償で提供するフードドライブなど、多彩な催しが行われました。

このように幅広い世代が楽しめるイベントとなった背景には、主催者だけでなく、ひよこを運営する三田好子さんや岡田裕子さんの協力がありました。企画段階から積極的に関わり、地域のさまざまな企業や団体を巻き込みながら準備を進めたことで、より多くの人々が参加しやすいイベントとなりました。

はじめは6人のメンバーから

「あだちマルシェ」が生まれたきっかけは、「地域のつながりを広げ、多世代が気軽に交流できる場をつくりたい」という想いでした。地域で多世代交流イベントを企画していた包括あだちは、日頃から「シニア向けに何かできないか」と考えていたひよこの三田さんに相談。お互いの想いが重なり、多世代が参加できるマルシェを共に企画することになりました。

この動きに賛同したのが、地域の保育園の渡邊義也園長。保育園の運営と並行して、経済的に困難な方々へ食料品を提供する「おもいやり冷蔵庫」の活動にも取り組んでおり、以前からひよこの活動にも関心を寄せていました。

さらに、日頃からひよこに取材で訪れるなどつながりのあった社会福祉協議会の職員も加わることに。そして、包括あだちの葛村恵理香さんと桑原清美さんも参加し、10月末に最初の打ち合わせを行いました。こうして、それぞれの想いが結びつき、「あだちマルシェ」がはじまりました。

準備期間2カ月の中で広がった協力の輪

地域の人々が気軽に参加できるイベントを目指して、ひよこの運営を日頃から支援している立教大学のボランティアサークルEddy(以下、Eddy)や、やよい図書館の読み聞かせボランティアに協力を依頼。また、包括あだちや社会福祉協議会とのつながりを活か



会場にはたくさんの人が訪れ、賑やかな様子でした

新規登録団体紹介

Lot us Heart

ダンスを楽しみながら発達を支援するLot us Heart(ロータスハート)は、発達に遅れがある子どもやグレーゾーンの疑いがある子どもに、ダンスを通じて療育を提供する団体です。活動は参加者5人程度と少人数で行っており、一人一人のペースに合わせて、楽しみながら発達を支援することを目的に活動しています。

代表の滝田徹さんはキッズダンスのインストラクターとしても活動しており、これまでにグレーゾーンの疑いがある子どもたちがダンスを習いに来る場面を多く見てきました。馴染めない環境や、講師の理解・知識不足によって適切な指導が受けられず、自己肯定感が下がって辞めてしまうケースも少

聞きたい、あなただけのストーリー

なくありませんでした。滝田さんはそんな状況を改善しようと、今まで培ってきた療育の知識とダンスの経験を活かしてLot us Heartを立ち上げました。

団体名の「Lot us Heart」には、「たくさん人の心」という意味の「Lot us Heart」と、清らかな心を象徴する蓮の花「Lotus(ロータス)」の両方の意味を込めています。「ダンス療育を通じて親子ともに笑顔になり、幸せな時間をみんなで共有できることが大きな喜びです」と代表の滝田さんは話します。

「ダンス療育」はあまり馴染みのない言葉かもしれませんが、専門的な知識を持つ講師が責任を持って子どもたちと真剣に向き合っています。習いご



Lot us Heart キッズダンス教室

とが続きにくいお子さんや、何かに挑戦させてあげたいけれど一歩踏み出せないお子さんにとって、その最初の一歩を支える場になればと思っています。と滝田さん。月に1回の無料体験も実施していますので、関心のある方はご参加ください。

し、訪問看護ステーションや医療機関の看護師など、多くの協力者が集まりました。

準備期間はわずか2ヶ月と短期間でしたが、回を重ねるごとに打ち合わせの参加者が増え、イベントの内容も充実していきました。

そして迎えた当日。事務局の催しに加え、近隣の乳児院のPRブースや、Eddyによる子どもの遊び場など、様々なブースが出展されました。また有限会社斉藤藤機の計らいで、株式会社東京園二家飯田橋神楽坂店から提供されたお菓子が参加者に配られるなど、地域の団体や企業の協力により、100名近い人が参加した活気あふれるイベントとなりました。

会場を訪れた地域のシニアが各ブースを興味深そうに見て回る一方で、Eddyのブースからは子どもたちのはしゃぎ声が聞こえてくる。そんな穏やかな時間が終始流れていきました。

協力の秘訣

イベントを振り返り、ひよこの岡田さんは「準備期間が短かったにもかかわらず、大きなトラブルもなくスムーズに運営できた」と話します。その秘訣は、日ごろからのコミュニケーション。

「普段から自分のやりたいことやアイデアを人に話すようにしています。そうするとそれを実現してくれる人が自然と現れる」と岡田さん。こうした日常的な交流が地域のつながりを生み出し、多様な人々に関わるイベントにつながりました。

今回のマルシェは平日の開催だったため、子どもたちはあまり参加することができませんでした。今後の「あだちマルシェ」は、子どもたちもさらに参加しやすいように企画して、地域のシニアも子どもたちも一緒に楽しめるようなイベントにしていきたいと、意気込みを語ってくれました。



読み聞かせコーナー



ハンドマッサージコーナー

注目の活動

センターピックアップマップ

外国人のみなさんのコンパスに日本語教室こんぱす

日本語教室こんぱすは、足立区の日本語ボランティア養成講座に参加したメンバーが「もっとライブ感のある教室をやりたい」と考え、日本語教室のなかった興野地域に設立しました。「こんぱす」という名前には、外国人の皆さんが進むべき道を見つけて手助けをしたいという想いが込められています。現在、9名のメンバーで運営、毎回10名ほどの外国人の方が参加しています。

日常生活に根付いた活動を行っています。



日本語教室では日常会話を中心に学びます